

地域のトータルヘルスケアサポート企業として、人々の健康な生活を支えたい。

千葉県内に50店舗の調剤薬局を構える株式会社タカサ。

調剤薬局の他に、福祉用具のレンタル、販売、サービス付高齢者向け住宅など

「介護事業」も手掛けている。

「介護事業」のPR、薬や介護の正しい知識の啓蒙など、

様々な目的で利用されている『待合くん』の、導入の経緯や効果について話を伺った。

株式会社タカサ

代表取締役 鎗田 貞子氏



「薬局」と「介護」で、地域の健康をトータルケアサポート

調剤薬局に留まらず、「安らぎ」と「癒し」の空間で地域のトータルヘルスケアサポートを行う株式会社タカサ。「医療で何か困りごとがあればタカサに頼ってほしい」「関わる人々の生活のどこかでお手伝いがしたい」との想いで調剤を中心にサービスを展開してゆき、介護施設の運営も行う「介護事業」は、「薬局」と並ぶタカサの二大柱だ。「デンマークを訪れたとき、日本の福祉が大きく遅れていると感じたんです。デンマークの介護施設を見て、こういう施設であれば自分も入りたい、またはは親を安心して入れられると思い、日本でも別法人で作ることを決意しました」と語るのは、鎗田社長。福祉用具レンタルはメンテナンスから配送まで全て自社で行い、また、医師、看護師、ケアマネジャーと連携しながら在宅訪問を行うという充実したヘルスサポートからも、社長の強い想いが伺える。地域密着型企业として、地域の人々の健康を支えている。

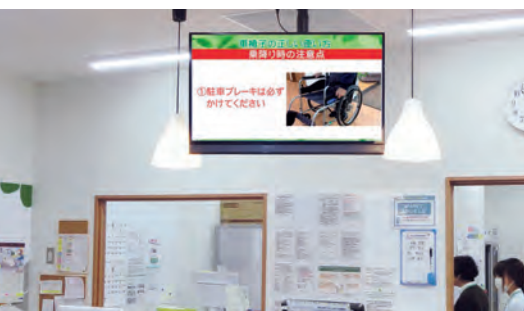
タカサブランドのPRと薬や介護知識の啓蒙のために、『待合くん』を導入

これまでは待ち時間のストレス削減の目的として導入されることが多かった『待合くん』だが、ここ数年で広報活動の一環として利用されることが増えてきた。タカサ薬局でも、東京に初進出するにあたり、タカサブランドのPRとしてPARCO錦糸町店で『待合くん』を利用している。「タカサブランドは、千葉ではある程度浸透しているのですが、東京ではまだまだ弱いと思っています。『待合くん』であれば、「介護」についてのオリジナル動画を作れ、タカサの強みをアピールすることもできます」と導入の経緯を話すのは、大谷氏（営業開発室）。加えて、介護に関するオリジナル動画を放映することで、タカサ薬局を介護の相談窓口として利用していただける可能性に魅力を感じたと言う。鎗田社長は、「錦糸町店は店舗が小さく、介護用品を置くスペース確保が難しいのですが、動画であれば場所を取らずに介護用品を紹介できます。また、「杖の使い方」、「車椅子の押し方」などといったオリジナル動画を制作することもできる。30年間介護をやってきて気になっているのが、介護用品の「使い方」を教えてくれるものが少ないということなんです。ですので、タカサが持つ知識をできる限り患者様に

お伝えしていければとも考えています」と、タカサ薬局の『待合くん』の活用法について話す。

「服薬アドヒアランスの向上」と、「待ち時間のストレス軽減」に期待

小児科、内科、産婦人科、歯科を中心に多科で広域の処方箋を応需しているタカサ薬局では、「服薬アドヒアランスの更なる向上」と「待ち時間の短縮」が課題となっていた。『待合くん』を流すことで疾患や薬に興味を持ってもらえ、アドヒアランスが向上する効果があると言う。また、ぐずるお子さまにアニメなどを見てもらうことでストレス軽減に繋がることを期待している。実際、お子さまの泣き声が減ったと話すのは、錦糸町店管理薬剤師の加藤氏。「お子さまも動画には関心を示し、お母さんもつられて目が動き、動画を見ていただけるんです」と、待合室の光景を話す。動画はポスターと違って順を追って説明できるので理解されやすく、また複数のポスター情報を1つの画面で見せられるので、待合室の景観を保つことができる点もメリットだと言う。「今後は、タカサショー（薬を通じた地域の方とのコミュニケーションイベント）の様子などを放映し、地域に根差した薬局であることをアピールしていきたい」と、今後の『待合くん』活用法について話す。



(オリジナル番組)